

# 遼寧中部都市群（瀋陽経済圏）の経済発展と 産業配置について<sup>1</sup>

遼寧社会科学院研究員・遼寧省区域経済研究会会長 馮貴盛

## 要 旨

遼寧中部都市群（瀋陽経済圏）は遼寧省の東北旧工業基地振興の核となる地域であり、中国においても重要な設備機械製造業の生産基地である。その発展の趨勢は、遼寧省、東北地区はもとより、中国全体に対しても大きな影響を及ぼす。

本稿は以下に記した4つの部分から構成される。地域発展の概況と国土資源の総合的評価（地域・国土資源の比較優位性、国土開発と経済・社会の発展に関わる主な問題）、域内経済発展の総合的な配置（瀋陽を主体とする経済圏、鞍山鉄鋼産業連動経済圏、瀋陽 - 大連回廊）、産業構成の調整と配置構成（工業、農業、サービス業）域内共同市場の構築と「同城化」の推進（地域一体化推進に関する主な課題と提言、域内共同市場の枠組みと構築に向けた取り組み、「資源の享受、利益の均衡」メカニズムの形成と整備、市場監督・管理メカニズムと制約メカニズムの構築と整備）。

## 1 地域概況及び国土資源の総合的評価

遼寧中部都市群（瀋陽経済圏）は、瀋陽市を中心とする遼寧省の中部地域経済圏を指し、その範囲は、瀋陽、鞍山、撫順、本溪、営口、遼陽、鉄嶺の7市及び所轄21県（県級市）に及ぶ。経済圏の面積は6.49万km<sup>2</sup>で、遼寧省の43.9%に相当する。その人口は2,156万人、遼寧省の50.5%を占める。GDPは5,675.4億元で、遼寧省の61.3%を占めており、1人当たりGDPは26,325元に達している（2006年データ）。

遼寧中部都市群では、都市化が進み、科学技術が優れ、インフラ整備が進んでいる。また、中国の原材料基地、設備機械製造業基地と軍事産業基地である。この地域の経済発展は、遼寧省だけでなく、東北旧工業基地の振興にとっても重要な意義を持つ。

### 1-1 地域・国土資源の比較優位性

遼寧中部都市群は北東アジアの中心部に位置し、中国東北地区と環渤海経済圏をまたがり、地政学的な優位性が突出している。同地域は遼東山地と下遼平原の中間部に位置し、関内と関外（訳注：山東省山海関を境とした区分方法）をつなぐ交通の要である。経済圏は、東は日本と韓国、南は北京市、天津市、唐山市、西は山西省、内モンゴル自治区、北は吉林省、黒龍江省及びロシアに近く、東北地区の内陸と沿海部地域をつなげる黄金ベルト地帯となっている。

また、この地域は重工業企業が多数あり、NC工作機械、一般機械と大型プラント設備産業が集中する。中国の大手鉄鋼集団である鞍本鉄鋼集団があるほか、中国の石油化学工業、化学繊維原料の生産基地ともなっている。

経済圏の重化学工業の産業チェーンは、「鉱山 エネルギー工業 冶金 機械設備」によって構成されている。このような産業間リンケージは、地域経済を発展させ、地域経済一体化の進展を推進することができる。また、資金、マネジメント、技術、人材育成を通じて、経済構造を優れたものにし、産業構造のレベルを向上させ、工業化を加速させることもできる。従って、経済圏の発展のために、海外及び国内の経済先進地域からの産業移転を積極的に誘致すると同時に、域内の中核都市から周辺都市への産業移転を進め、産業間リンケージの効果を最大限に発揮させる必要がある。

域内の交通システムの一体化は、域内経済一体化を実現するための基盤である。東北地区の要である遼寧中部都市群は、全国鉄道・道路ネットワークの中で最も密度が高い地域の1つである。鉄道、道路、空路などの輸送方法が連結し、瀋陽を中心に周辺地域へと放射状に連なる立体的な総合運輸ネットワークがすでに形成されている。

瀋陽を中心とする半径100km以内には、人口100万以上の3特大都市（瀋陽、鞍山、撫順）、人口50万以上の3大都市（本溪、営口、遼陽）、1中規模都市（鉄嶺）7県級市、441鎮が存在する。域内の都市部人口は約1,150万、都市化率は5割強に達し、遼寧省の平均水準より2%程度高い。

### 1-2 国土開発と経済・社会の発展に関わる主な課題

#### ➤ 重い歴史的な負担の問題

遼寧旧工業基地は、計画経済体制によって作り上げられ、かつ数十年の経験を経たものであるため、旧体制とそれに

<sup>1</sup> 本稿は、遼寧省国土規劃プロジェクト「遼寧瀋陽経済区(中部城市群)発展与布局研究」2005TP041の研究成果の一部、及び2007年7月13日に行われた『政協フォーラム』で発表した馮貴盛の講演原稿「大力構建区域共同市場・加速推進中部城市群一体化和同城化進程」に基づき、構成したもの。

関係する伝統的観念はかなり強い慣性力をもっている。現在でも国有経済の比率が高く、機械の老朽化が目立っている。国有企業は、地元政府による束縛から抜け出すことができず、市場の主体を形成することが困難である。国有企業は、市場メカニズムに応じた利潤最大化の原則に従って、構造調整と産業の整合を行うことができず、民間経済の発展が停滞しているため、大規模な資本の拡張、域内分業システムの形成に至っていない。

#### ▶ 産業構造的な矛盾

エネルギーの利用効率が悪い。域内では、原材料と設備機械工業の比率が高く、技術と設備のレベルが低い。資源の利用効率が低く、原材料、エネルギーと水資源の消耗が多い。エネルギー利用効率は29%で全国平均水準より4%低く、経済先進国の1980年代の水準に留まる。資源型産業の比率が高く、付加価値の低い加工製品が多く、逆に付加価値の高い製品が少ない。国内市場向けの製品が多く、輸出向けの製品が少ない。一次産品・川上製品が中心で、精密品と川下製品は少なく、資源のリサイクルが出来ていない。

#### ▶ 経済・社会の発展を制約する環境問題

水質汚染問題が深刻である。4大河川のうち、渾河、太子河の上流域の水質はⅡ類、大遼河、遼河全域の水質はⅢ類で、いずれも厳しい状況にある。水環境監視・測定の結果によると、劣悪なⅣ類水質断面は72.2%を占め、Ⅲ類水質断面は13.9%を占めている。

また、都市の大気汚染も深刻である。近年、工業排気ガスの排出量が一貫して上昇し、亜硫酸ガス、煙・粉塵の排出量が多い。製紙、石油化工、冶金、建材、電力などの産業汚染も深刻である。2004年現在、遼寧省では、工業付加価値1万元当たりの工業排気ガスが5万m<sup>3</sup>となっており、全国水準より25%も高い。

## 2 域内経済発展の総体的な配置

### 2-1 瀋陽を主体とする経済圏

瀋陽市の中核都市としての機能、周辺への波及効果を強化する必要がある。瀋陽を中心とし、経済に関する各種機能に基づき瀋陽経済圏の各都市の分業と協力システムを形成する。瀋陽市は集積された経済環境を一層構築していかなければならず、企業管理・研究開発機能が集中し、新しい産業、とりわけ金融、保険、コンサルタントなどのサービス産業と管理センターが集中的に分布する地域になる必要がある。それによって、科学研究、教育の発展、交通、通信など大型インフラ施設の建設のために、さらに大きな集積効果が発揮できる。

瀋陽は、「瀋陽 - 大連（瀋大）」、「瀋陽 - 四平（瀋四）」、「北京 - 瀋陽（京瀋）」、「瀋陽 - 丹東（瀋丹）」、「瀋陽 - 撫順（瀋撫）」という5つの交通網を軸に、5方向にある開発区と、建設中の撫順、鉄嶺、本溪、遼陽の4都市の開発区（パーク）との結合を推進することによって、中心都市としての波及効果と役割を發揮し、4都市との一体化を促すことができる。

撫順、鉄嶺、本溪、遼陽など4都市は、瀋陽との隣接地帯それぞれが地場産品を瀋陽の市場に参入させるための前線基地であり、また瀋陽の産業を段階的に移転する受け皿地帯となっている。

この中で撫順市は、経済技術開発区を西へ拡大し、瀋陽汪家工業グループと渾南新区とを次第に結び付けていく方向である。2都市が共同で渾河を整備し、開発・建設することによって、それを重要な景観、観光、エコロジー、産業の各種ベルト地帯となるよう構築し、撫順高湾地区を徐々に瀋陽世博園区の総体な企画、建設の中に取り込む。

本溪市では、経済技術開発区を北へ拡大し、瀋陽南部の都市近郊部と次第につなげていく。

遼陽市では、瀋陽との隣接地帯において、工業パークを設計、建設し、瀋陽周辺で化学工業、繊維、設備機械組立加工、新型建材など5大パークの建設を加速し、瀋西工業回廊と結び付けていく。遼陽では瀋陽に向け、軽工業、建材、鋁産品、農業加工品の供給基地、投資誘致基地、部品供給、組立基地、科学・技術移転基地、都市住民のリゾート地という5大基地を作り上げ、「環瀋南経済ベルト」を形成しながら経済発展のレベルを向上させていく。

鉄嶺市では、新台子工業パークを増強し、管内の県・鎮を南に適時拡大しながら「瀋北大開発区」と徐々に連結して、「瀋鉄工業回廊」の構築を加速化する。

瀋陽市では、「瀋西工業回廊」建設を、瀋陽市の基幹産業の新たな構造形成と遼寧中部都市群及び遼寧省の工業発展を誘導するための重要な成長ポイントと考える。「瀋西工業回廊」は、瀋陽西部から開発大道に沿って、遼中県へと延び、南の渾河から北の秦瀋高速鉄道まで、800km<sup>2</sup>の非耕作地の範囲において、先進設備製造業の中核区、化学工業区、冶金再加工産業パーク、建材工業パークという4大園區を重点的に建設していく。「瀋西工業回廊」は、東西2つの軸、9つの集団によって構成され、瀋陽の新しい産業の発展空間になっている。

瀋陽西部重化工業区から営口港までの距離はわずか135kmであるため、「瀋西工業回廊」は遼寧中部都市群の遼陽、鞍山、営口まで延伸され、遼寧中部都市群における

重工業発展の基盤として構築されていく。「瀋西工業回廊」は新民市、于洪区、遼中県と有機的に連携して、瀋陽郊外の都市化を促進するために重要な役割を發揮していくであろう。

## 2-2 鞍山鋼鉄産業連動経済圏

鞍山市は、鉄鉱石・鋼材の生産量が遼寧省のおよそ半分を占め、鉄鋼産業を基幹産業とする大都市である。同市は「瀋大」高速道路を軸とし、鞍本鉄鋼集団を中心に、地域経済における鉄鋼関係産業の波及効果を發揮している。北は遼陽市、南は営口市、東は本溪市にまで、鉄鋼産業とハイテク産業の優位性を拡大し、鞍本鉄鋼集団の大型主力産品を中心とする精密加工を行い、鋼材加工産業の集積を形成していくであろう。

## 2-3 瀋陽 - 大連（営口）回廊

「神州第一路」と称されている瀋陽 - 大連（瀋大）高速道路は、遼寧中部都市群の7都市を結んでいる。この黄金回廊のアドバンテージに基づき、東北の拠点都市としての役割を發揮させることによって、瀋陽経済圏及び瀋大高速道路沿線の都市における地域協力、産業リンケージ、機能の整合などの面を新しいレベルに到達させる必要がある。

また、大都市の産業拡散を的確に推進するとともに、中小都市の発展を重視し、都市群の構造を一層完全なものとするのが求められる。瀋陽と大連との間にある営口の都市機能を向上させ、中部都市群と大連など沿海都市との連携や発展を加速するとともに、瀋大経済区を構築して東北地区の成長点を形成していくことが期待される。

## 3 産業構成の調整と配置構成

### 3-1 工業

2004年現在、瀋陽経済圏における第2次産業の付加価値は遼寧省全体の71.7%を占めている。この地域の経済発展は全体的には工業化の中期または中後期に移行しつつある段階で、重工業の発展がこの時期の重要な特徴であると考えられる。

工業発展における総体的な戦略の位置付けは以下のとおりである。

世界からの重化学工業の移転を受け入れるに当たりポテンシャルが大きく、競争力を持つ地域として瀋陽経済圏の技術レベル、資本力、産業リンケージの広範な基礎産業を発展させる必要があり、新たな工業化を先行的に取り組み、資本と技術が集積した先進的な製造業の基地になることが求められる。

瀋陽経済圏は、知的財産権を有する一定規模以上の企業（訳注：年間売上500万元以上の商業企業、もしくは年間売上200万元以上の工業企業或いは国有企業）の育成に注力し、国際経済の水平分業に参画する必要がある。

瀋陽経済圏を中国の先進的な設備機械製造基地、精密加工、原材料工業基地として構築し、遼寧省ひいては東北地区のハイテク技術産業と農産品加工モデル区に発展させることが望まれる。瀋陽経済圏における工業発展の戦略配置において、優位性のある産業集積戦略を実施しなければならない。産業集積の構築を通じて、経済圏の重要な産業リンケージの延伸と産業の連動的な発展が拡大されることで、都市群において瀋陽がリーダーとなり、生産要素が相互に補完され、川上・川下産業の構成や各都市の分業が合理的なものとなる産業配置が形成される。

#### ▶ 自動車・設備機械製造業の集積

自動車・設備機械製造業は瀋陽経済圏の重要な基幹産業である。経済圏には華晨金杯、華晨BMWなどの自動車メーカーがある。その発展方向としては、北方における大規模かつ研究・開発能力に優れた専門レベルの高い自動車組立、研究開発、部品加工の産業集積を形成し、国内でのリーダー的地位を形成することである。

設備機械製造業発展の総体的方向は、インフラとプラント設備製造業の大幅な発展を促し、自主的な開発能力、組立能力を向上させることである。その育成配置の方向は、瀋陽華晨金杯汽車（自動車）有限公司を筆頭として自動車製造業、販売・部品サービス産業の企業群を優先的に発展させることにある。

瀋陽市を中心に鞍山、撫順、本溪、営口、遼陽、鉄嶺の7都市で自動車部品生産を発展させ、瀋大高速道路及び鉄道を軸として、優位性のある設備機械工業の産業発展集積を作り上げる。また、瀋西工業回廊の建設を進め、瀋陽経済圏における設備機械製造業の中心地域として、大型・新型技術設備を重点として発展させることが求められる。

#### ▶ 石油化学工業の集積

石油化学工業は瀋陽経済圏の産業発展戦略において重要な位置を占め、遼寧省の産業全体の30%を占めている。その発展方向は3大基幹産業の構築にあり、石油化学工業の再編を推進し、資源の優位性と加工能力との結合、石油化学産業リンケージの伸長、重工業・軽工業の調和の取れた発展態勢を形成することである。

撫順市には1,000万トン規模の製油と100万トン規模のエチレン工場の建設計画があり、撫順の石油化学企業を筆頭として、経済圏における石油化学、エチレン、触媒、ファイナケミカルなどの産業間リンケージが構築される。

遼陽市では化学工業をはじめ、化学繊維、プラスチック、紡績などの産業間リンケージが構築される。また、瀋陽化学工業集団を筆頭として、ファインケミカルなどを主とする無機化学工業の産業間リンケージが形成される。

#### ▶ 鉄鋼産業の集積

瀋陽経済圏は国の重要な鉄鋼生産基地でもある。凌源鋼鉄集団を除き、鞍山鋼鉄、本溪鋼鉄、北台鋼鉄、新撫鋼鉄、営口五鉱の遼寧5大鋼鉄集団が経済圏の中にあり、鉄鋼生産量は遼寧省の95%を占めている。その発展方向は鞍山鋼鉄と本溪鋼鉄を筆頭に、鋼材製造・加工を行う企業群を発展させ、付加価値のある製品の生産力を高め、従来輸入に依存してきた高強度の鋼板、船用板バネを内製化させることである。

その育成配置の方向は、内陸資源型の鉄鋼生産能力を安定させるとともに、次第に沿海地域へ発展させることにある。鞍山・本溪地域の鉄鋼生産量を3,500万トン以内に制限するとともに、鞍本鉄鋼集団の沿海地域への発展を支援するため、営口鮫魚圈港湾地域で世界先進レベルの大型鋼鉄プロジェクト建設が進められている。

#### ▶ 農産品加工産業の集積

瀋陽経済圏は農林水産業も盛んである。近年、農産品加工産業の発展は早く、市場競争力の強い企業が現れた。その発展方向は、農業のハイテク産業化を目標に、環境保護、エコロジー、ハイテクなど企業を育成し、特色のある農産品加工産業の集積を形成することにある。地区間の境界を取り払い、産業間リンケージの集積経営モデルを形成する。

その育成配置は、瀋陽北部にある農業ハイテク開発区を筆頭に、瀋陽における農業関連産業の「シリコン・バレー」をつくり上げるものである。その発展を北へ拡大し、康平県、法庫県、道義開発区を接点として農産品加工工業を主とする瀋北都市回廊を形成し、東北部最大の農産品加工基地と近代的農業モデル区域を建設する。また、瀋陽、営口の飲料品加工基地、遼陽・鞍山・営口の大豆加工工業、鉄嶺の肉類食品加工工業などの集積を形成する。

#### ▶ 新型建材産業の集積

瀋陽経済圏には一定規模を有する新型建築材料の企業が700余社存在する。その発展方向は、建設材料産業パークと同産業のリーディングカンパニーを中心に、付加価値の高い新型建設材料を開発し、普及させることである。産業パークの育成配置は、地域の特色を最優先とし、建材の地域分業を実施するものである。

#### ▶ 鉱産品加工産業の集積

遼寧省は「世界のマグネシウムの都」といわれている。1980年代以来、マグネシウム関連産業は、遼寧省ないし中

国でも発展潜在力があるものとなった。遼寧省のマグネシウム保有量は25.8億トンであり、中国の85%、世界の20%を占めている。

海城市、大石橋市、撫順市などがマグネシウム原料の主要な分布地域である。発展方向としては、付加価値の高い新産業を構築し、マグネシウム・化学材料生産基地とマグネシウム新合金の生産基地を建設することにある。

産業配置としては、2010年まで菱鉄鉱山における企業数を現在の200社から100社以下に減少させ、年間売上高が1億元超となる企業を育成することである。

### 3-2 農業

農業に最適な土地や適切な気候に恵まれた遼河平原に位置する瀋陽経済圏は、遼寧省における最大の穀物及び野菜の生産加工基地である。2004年、第1次産業の付加価値は323.7億元に達し、遼寧省の42%に相当した。

農業の発展方向は、都市が集まり、交通の利便性が高く、市場が大きいという条件下において、施設農業、オーダーマイド農業、加工農業、観光農業など近代的農業を進展させ、農産品の標準化と加工、養殖などにおける工場化を推進することである。また、農村土地の転貸制度の改革を行い、大規模経営、専門的生産を促進するとともに、サービスを組織化し、農業生産の市場化を進め、農村経済の協力組織を育成し、農民による市場参入の組織化を図ることにある。

農業の育成配置としては、地域の農業資源、条件の優位性を発揮させ、農業生産の地域配置を整備することである。

ここでは、瀋陽 - 大連有機高効率農業生産ベルトと「4大優良農産品産産区」の建設、営口市を重点とした近海養殖業と加工業の発展による水産品生産基地の建設、本溪市、撫順市を中心とした遼東丘陵地区における林業、果物、牧畜、漢方薬原料と特産品の生産基地の建設、鞍山市、遼陽市、営口市の低地、平原を利用した高品質の農産品生産加工基地の建設などを進める。また、瀋陽 - 大連交通ラインと都市近郊に近代的農業のモデル区を建設し、観光農業と体験型農業を進展させることである。

### 3-3 サービス業

2004年、瀋陽経済圏のサービス業の付加価値は1,723.6億元に達し、遼寧省の61%を占めた。このうち、瀋陽市は849.5億元となり、経済圏の49.3%、遼寧省の30.1%を占めた。

経済圏のサービス業のトレンドは、市場化、近代化、グローバル化を背景に、サービス業の競争力向上を目標に、

近代的情報技術の運用を主要手段とし、地域のサービスネットワークシステムの構築とサービス産業の編成を主眼としている。

伝統的なサービス業を再編して、新しいサービス業を積極的に育成する。特にサービス業と製造業との融合と連動的な発展を重視し、先進的な製造業に対するサービス業の促進作用を大きくする必要がある。近代的サービス業の迅速な発展を促進するためには、都市機能の整備が求められる。

#### ▶ 瀋陽を核とする地域物流センターの建設

瀋陽経済圏において、瀋陽市、營口市、鞍山市、撫順市、本溪市などの物流配送基地を重点的に発展させ、3PL物流を発展させることによって、近代物流ネットワークの配送システムを構築する。

経済圏における陸路、海路の国境施設及び域内の鉄道、高速道路など物流の基礎的ネットワークの優位性を十分に発揮し、陸鉄海と陸海による複合輸送を通じて、経済圏の立体的交通運輸ネットワークをさらに円滑なものとし、経済発展に強力な補完力を形成する。

都市の高速道路を通じて瀋陽の生産物を營口港から直接輸出できるようにする。瀋陽には輸出加工区を建設し、沿海都市と同様の利便性の高い通関環境の構築が必要である。

#### ▶ 地域の情報基盤を構築

近代的情報サービスネットワークシステムの構築を加速し、域内7都市でデジタル情報化のプラットフォームを整備する。瀋陽市と鞍山市から先に都市情報システム、社会保障ネットワークサービスシステム、行政情報システム、電子ビジネスなど情報ネットワークサービスの確立を進め、2010年までに域内7都市において情報デジタル化を実現する。

これにより各都市は情報源の共有化、情報の相互流通を実現し、各都市の行政、企業、事業・社会団体に遼寧中部都市群建設に関する情報プラットフォームを提供する。

#### ▶ 地域金融保険業の発展を加速

瀋陽市には東北金融センターを構築する。外国金融機関の瀋陽進出を促進し、内外の銀行、保険、証券、ベンチャーキャピタルなどの関連企業や事務所などを誘致する。証券、ファンド、ベンチャー市場を積極的に発展させ、瀋陽地域の市場金融・保険業の発展を加速する。

#### ▶ 地域一体の「要素市場」(生産財、不動産、資金、労働力市場)総合体を構築

情報技術を用いて「要素市場」ネットワークを発展させ、地域が一体となった「要素市場」の総合体を構築する。瀋

陽に資本、財産権取引、労働力、技術パテント取引などの市場を設立、整備していく。

地域における財産権取引機構を整備して、地域資源の調整・再編成、他地域との合併・買収、財産権取引などの活動をさらに広範に組織、展開する。整備された資本市場を設立し、効果的な金融サービスを提供して、産業、商業、金融における資本間の有機的な相互連携を実現する。また、地域人材の交流・育成基盤を作り、人的資源を効果的に活用していく。

#### ▶ 観光文化ネットワークの構築と観光・コンベンションの強化

遼寧中部都市群には、共通した文化・歴史・自然環境があり、地理的に近接し、観光資源や名勝が豊富といった特長があり、観光産業が大きな開発の空間を持ち、観光文化の統一した市場を形成する条件を有している。

瀋陽経済圏の観光圏を早期に始動させ、観光ネットワークの形成と整備を加速し、地域観光の整備、再編を推進していく必要がある。経済圏の観光業全体の競争力を高めるとともに、瀋陽市のコンベンションサービス機能を積極的に拡大し、国際コンベンションセンターに発展させることが望まれる。また、食や宿泊、交通、観光、ショッピング、娯楽などのサービスネットワークシステムの構築により、観光コンベンションの魅力を高めることも必要である。

#### ▶ 域内商品流通市場の構築

商業ネットワークの配置を優れたものにし、高いレベルの卸売市場、開放・競争・秩序がともにある商品流通市場を建設する。フランチャイズ経営、代理、配送など近代的物流システムを整備し、瀋陽を中心とした国際商業貿易都市を建設する。瀋陽の大型卸売市場、大型スーパー、特色のある企業が他の6都市でチェーン展開を行ない7都市の統一市場を形成し、国内貿易ネットワークを発展させるよう努める。

### 4 域内共同市場の構築と「同城化」の推進

#### 4-1 地域一体化推進に関する主な課題と提言

#### ▶ 地域一体化における協力・協調建設メカニズムの形成

遼寧中部都市群の市共産党委員会書記、市長連合会議で地域一体化の推進を協議することは既に制度化された。地域一体化の協力機構は常設機構に変わり、各市の主管(副)市長、秘書長、常設機構及びその責任者は明確になっている。中核都市の瀋陽市が地域一体化の協調・協力の責任を担うことも決まっている。協力・協調メカニズムの形成は、遼寧中部都市群の一体化と「同城化」の進展を強力に推進させていこう。

マクロ的な推進・指導メカニズムがある程度形成されている。遼寧中部都市群の地域発展計画、交通、環境保護、人的資源、金融、観光などの8プロジェクトが、省政府の発展改革委員会と7市の関連部門の積極的な努力によって相次いで完成された。総体的計画と専門的プロジェクトの編制と完成は、中部都市群の地域発展と産業育成配置のミクロ的な行政指導と地域一体化の推進にとって重要な意義を持つ。

#### ▶ 交通・環境保護等インフラ一体化建設の加速

遼寧省党委員会と省政府による支援により、環中部都市群高速道路の本溪 - 遼陽 - 遼中 - 新民、瀋陽 - 康平間の工事が開始され、鉄嶺 - 法庫 - 新民の間では工事開始の準備段階に入った。

また、都市周辺の旅客輸送の公共交通化が始まった。瀋陽 - 撫順、瀋陽 - 鉄嶺、海城 - 鞍山 - 遼陽（首山）などで共通バスの運行、管理による公共交通化が進み、既に試験運行の段階に入っている。

遼寧中部都市群の鉄道軌道建設プロジェクトの前期建設はすでに展開されている。瀋陽市では地下鉄による都市の軌道建設が進められている。

中部都市の統一的な情報プラットフォームとして「東北投資サイト中部都市群チャンネル」と「遼寧中部都市群サイト」を整備し、市外局番024の統一を撫順から推進する。

地域環境一体化の整備は協力実施段階に入った。2007年から瀋陽市、鞍山市、撫順市、遼陽市では汚水処理プロジェクトが開始した。7都市は連合して遼河、渾河、太子河の河川の環境整備に着手する。

#### ▶ 瀋陽市の中核的役割による遼寧中部都市群のブランド構築

東北地区及び遼寧省の経済中心都市である瀋陽市は長期間にわたり、経済力不足、構造的阻害要素などにより、周辺都市への影響力が比較的弱かった。しかし、最近3年間の構造改革とともに、行政区の体制障害も克服し、地域協力のスキームを構築してきた。

例えば「農業博覧会」、「中国瀋陽韓国ウィーク」、「観光商品拡大説明会」、「大型ビジネス誘致会」、「就職・人材フェア」などのイベントを共同で開催するなど、中部各都市とともに積極的に都市ブランドを創出し、特に最近数年の間に「瀋陽」と冠した名称を「遼寧中部都市群」に改訂し、中国内外のビジネスを誘致した。これは外国投資家の遼寧中部都市群に対する理解を深め、中部都市の一体化を促進した。

#### ▶ 地域の産業協力、産業編成が進展

瀋陽市の自動車製造工場と設備製造業の産業と経済セン

ターとしての大市場の優位性に対応し、各市では一体となった産業分野を進展させている。例えば、撫順市は瀋陽自動車工業と設備機械工業への部品生産を進展させ、2006年の販売金額は1.6～2億元に達した。

2006年には鞍山鋼鉄集団と本溪鋼鉄集団の2大企業グループが市政府との指導関係を越えて統合し鞍本鋼鉄集団となり、中央政府も関心を持っている。また、鞍本鋼鉄は属地立地原則を越え、营口港で大型鋼材基地を建設し、2008年に完成する予定である。

▶ 瀋陽市、撫順市、本溪市、鉄嶺市の「同城化」が加速  
2007年から省政府の支援により、瀋陽市と最も近い撫順市、本溪市、鉄嶺市の3都市における「同城化」（訳注：都市機能一体化）措置が加速され、中部都市群の一体化を推進している。

瀋陽市と3都市の隣接地にある各開発区には、瀋陽汪家地区と接する撫順高湾開発区、瀋北新区と接する鉄嶺瀋鉄工業回廊開発区、瀋陽渾南新区と接する本溪高新区があるが、これらの開発区において共同で地域開発計画を制定し、瀋陽市を筆頭にして優位性を互いに補完し、連携して開発を行っている。

現在、瀋陽市と撫順市が接する地域で「同城化」が計画され、渾河沿線開発と「同城化」建設が実行されることとなっている。

#### ▶ 地域統一大市場の枠組みがスタート

4年にわたって瀋陽市と遼寧中部都市群の各市政府が積極的に推進する過程において、瀋陽市を中心とした各市による大市場化の基礎的な枠組みが形態を整え、一定の影響力がある財産権、生産財、消費財、観光、人材などの地域市場が形成された。

#### ▶ 地域一体化が直面する主要な問題

域内の商業銀行が分離しており共同の金融市場の欠落により、金融資本の都市間における自由流通の妨げになっている。

各都市間の産業協力と優位産業における再編の進展が緩慢で、重複投資が依然として大きな問題となっている。

食品流通において、市域間での検疫費（肉類）の重複徴収が依然問題となっている。

市域をまたぐ人材の雇用のスキームが拡大されているとはいえ、「社会保険」、「医療保険」は市域をまたげず、医療保険カードは属地のみでの使用しかできない。

市域間で、市場参入許可、優遇政策、社会管理、公共サービスが不均衡であり、格差が激しい。

#### 4-2 域内共同市場の枠組みと構築に向けた取り組み

##### ▶ 地域共同市場の建設は必須

地域共同市場の建設は、地域一体化を促進し、地域の発展力と競争力を高めるための基礎的条件である。地域一体化を進展させるための国内外の実践的行動により、統一した地域市場という大きな環境下において始めて一体化された地域経済が地域全体の発展を大きく促進していくことができることが理解された。

東北地区と遼寧省の中核地域として、遼寧中部都市群は全面的振興を実現するために地域一体化の促進を加速する必要があるが、地域一体化を実現するための基礎的条件とは、生産要素（資本・人材・技術・労働力）の市場、社会的管理、公共サービスの一体化、資本、資源、人材、技術、サービスの自由移動の実現により、市場の基本的役割として資源配置機能を発揮させ、資源が利益回収の高い地域に流れるように誘導し、地域構造の調整、産業協力・統合を促進していくことである。

それによって、地域における市域間の資源配置を改善、優良化して、交易コストを減少させ、資源の利用率を高めていく。また、投資者、技術者、労働者、消費者による選択の自由と機会を増進させていく。このようにしていかなければ、地域が発展力と競争力を向上することができなくなる。

##### ▶ 地域共同市場の全体的枠組みの構築

地域共同市場形成の重要なシンボルとは、地域市場の一体化、行政による縦割りの除去、中部都市群全体に及ぶサービス、財産権、資本、人材、労働力、商品（生産手段、消費財）の自由な移動、社会管理と公共サービスの相互連携である。

資本所有者、投資家、企業、人材、労働力による7都市間の経済活動は行政の一元化に対応するものであり、市場参入への資質、許可基準、認証は7都市が相互に承認できるもの、或いはバリアフリーにより7都市間で通用できる証明書とする必要がある。

次に、社会管理面では都市戸籍の制限を撤廃し、7都市の自由な人口移動を実現し、子女の就学、徴兵、就業は同一の待遇が享受されることが必要である。

公共サービスは統一的な開放を実行する。例えば、プロジェクト審査、優遇政策、市場参入基準を統一する。金融サービスは域内で一体的に決済でき、域内で現金引き出しや預金ができ、社会、医療保険は保険加入者に伴って7都市間で移動でき、医療保険カードが障害なく利用できるようにする必要がある。

遼寧中部都市群にとって、共同市場の構築は以下のよう

な多くの課題に直面している。伝統的観念による束縛、行政縦割り体制とその構造的障害、都市の発展レベルと市場環境の格差などである。従って地域市場一体化を実現し、地域共同市場を構築するには、まだかなりの時間を必要とするであろう。

重点を明確にし、瀋陽地域の中心的大市場を形成する必要がある。市場参入許可、経営要素の移動、公共サービスなど、国内外の市場共同化の慣例に従って、資本、財産権、生産手段、人材・労働力、商品物流、観光などの市場や情報仲介サービスセンターなどを設置する。

瀋陽市場を基に統一したルール、基準、政策に従って、あらかじめ形成されている各種の専門市場（人材労働力、財産権、商品、観光などの市場）の統合を加速し、地域市場一体化を次第に実現していく。

共同市場構築の重要な一環として、市場参入許可の基準、認定などにおける7都市の相互承認制度を創設し、地域内での認定証のバリアフリーな運用を実現する。

金融サービスの地域縦割りを重点的に撤廃する。瀋陽盛京商業銀行を中心に、域内にある各市の商業銀行による株式持合い形態を通じて中部都市群の商業銀行を統合するか、中部都市群6都市で瀋陽盛京商業銀行の支店を設立する。中部都市群金融サービスの一体化を促進することによって、域内での金融資本の自由移動が進められる。

域内の人的移動と社会・医療保険の不整合といった制度的障害を重点的に排除する。社会、医療保険の体制改革を一層深め、市域間の社会、医療保険の基準統一を徐々に実施する。

商品（生産手段、消費財）、資本、技術、人材、労働力の交流、協力のためのスキームを構築し、共同市場を育成する。省の関係部門と中部都市群の協力機構が主催し、毎年春、秋に商品マッチング商談会を開催、投資類製品（設備機械及び部品、鋼材、アルミ材、ビニール材、化工原料、建材など）の加工見本市や人材・労働力フェア、研究成果の交易会などを開催する。

##### ▶ 地域一体化推進メカニズムの構築と改善

提言として、省党委員会と省政府の支援により、省レベルの遼寧中部都市群一体化調整・指導機構を設立する。主管（副）省長が担当となり「一体化調整・指導弁公室」を設立する。「弁公室」は、省発展改革委員会を主とし、経済、交通、水力、環境保護、労働、人事、商業などの部門から構成される。

省一体化調整・指導機構の担当業務は次のようなもので

ある。

地域発展の総体的計画を策定し、地域特定のプロジェクトを企画、指導する。地域内にある中央政府所属企業と地方政府所属企業との協力と企業統合が直面するさまざまな矛盾と問題点の解決に協力する。

地域一体化の過程の中で生じてくる利害衝突の問題を調整する。資源の保護と開発利用で生ずる資源や環境への補償といった問題の解決に協力する。地域一体化に関連する各種の支援政策を制定する。

市委員会党書記と市長の年次会議の内容は実効性を持たなければならない。形式主義的に陥ることを避けなければならない。トップによる年次会議の場合、具体的な目標、任務を明確にし、また地域の発展と一体化が直面する重大な問題を解決する必要がある。

各地域の協力機構は実体のある常設機構であり、協力機構の義務と責任を明確にすることが求められる。スタッフには責任と権限を統一させると同時に、各市の公務員年度審査の中に組み込むこととする。

地域調整機構は、市党委員会書記と市長の年次会議で確定された目標と任務に従って実行状況を監督し、定期的に実務者レベル会議を開き、情報共有システムを構築する必要がある。

#### 4-3 「資源の享受、利益の均衡」メカニズムの形成と整備

地域一体化の推進と共同市場の構築過程において、各市、各県・区が得られる利益にアンバランスが生ずることは避けたい。獲得した利益には多寡があり、また利益も取得や逸失が発生するため、効果的な利益均衡メカニズムが形成されなければ、地域一体化の進展と地域共同市場の形成に影響を及ぼすであろう。

実力のある企業との協力や再編の過程で、統合された企業の属地における利益が損なわれないよう措置を講ずる必要がある。属地において企業に関連する経済成長と税収が減少せず、かつ統合後の企業ももたらす経済成長と税収増に歩調が合わなければならない。

鉱山の所在地に対して、適切な割合により鉱山資源開発（鉄鉱、マグネサイト、エネルギー、非鉄・非金属鉱物）の資源税を所在地に配当し、資源補償を実施することも求められる。

エコロジー補償メカニズムの構築も必要である。遼中南地域の都市、工業、農業用水の70%は遼東山地の水系から供給されており、遼東山地は遼寧省の経済社会発展のため

の生命線となっている。経済の持続的発展を確保するために、長期にわたり遼東山地に対する厳格な自然保護政策が実施されてきた。河流沿岸と貯水区での開発を制限して、森林伐採を禁止し、汚染型工業の発展を制限していたため、遼東地域の経済発展と住民の収入に直接的な影響を与えてきた。

省政府はできるだけ早期にエコロジー補償メカニズムを構築する必要がある。例えば、適切な割合により徴収された水道料収入の一部をもって水系属地地域に補償し、かつ税源移転を適切に増やさなければならない。

#### 4-4 市場監督・管理メカニズムの構築と整備

地域市場一体化の実施、共同市場の構築は行政の一元化に対応する。いわゆる行政の一元化とは、各市のプロジェクト審査許可と市場参入許可、社会管理と公共サービスなどが統一したルール、基準、政策によって行われるということである。

地域共同市場の秩序ある発展と地域市場一体化の実現を確保するためには、次の2点を注意する必要がある。第1に、市場に対する監督・管理が多面的に行われること、つまり一つの行政が単一の方法で行うのではなく、行政執行部門（工商行政、品質検査、検疫、税務など）では、統一したルール、基準、政策に従って市場への監督・管理を実施しなければならない。第2に、域内にある各市の工商行政、品質検査などの行政執行部局が連携して市場に対する監督・管理を実施しなければならない。

統一したルール、基準によって発行された市場参入許可の資格証、検疫証、品質認定証などを認めず、重複審査して費用を徴収しようとし、流通行為を阻害した者に対しては、域内での告発を求め、情状の極めて深刻な者に対して問責制を実施し、必要な行政処罰を与える必要がある。

〔中国語原稿をERINAにて翻訳〕

#### 筆者略歴

馮貴盛

1937年8月生まれ

遼寧社会科学院発展研究所所長、研究員

遼寧省区域経済研究会会長

中国共産党遼寧省委員会、遼寧省人民政府政策決定諮詢委員会委員

電話：024-86120491

住所：遼寧省瀋陽市皇姑区泰山路86号

# *The Economic Development and Distribution of Industry in the Central Liaoning City Cluster (Shenyang Economic Region)*

FENG Guisheng,

Researcher, Liaoning Academy of Social Sciences,  
and Chairperson, Liaoning Regional Economy Research Society

## **(Summary)**

The Central Liaoning City Cluster (Shenyang Economic Region) is the region that will be the core of the Revitalization of the Northeast Old Industrial Base in Liaoning Province, and is an important production base for machine and equipment manufacturing industries in China. The course of that development will have a great effect on Liaoning Province, the Northeast, as well as China as a whole.

This paper comprises four sections, indicated as follows: 1) the overall condition of regional development and a comprehensive evaluation of land and resources (the relative advantage of regional and national resources, and the main problems involved with national land development and the development of the economy and society); 2) the overall distribution of economic development in the region (the economic region based on Shenyang, the Anshan economic region geared to the iron and steel industry, and the Shenyang-Dalian corridor); 3) the drawing-up and configuration of the industrial composition (industry, agriculture, and service industries); 4) the construction of a common market within the region and the promotion of "coalescing into one city" (key challenges and proposals related to the promotion of regional integration, initiatives toward the framework and construction of a common market within the region, the formation and consolidation of a mechanism for "an enjoyment of resources and a balancing of profits", and the formation and consolidation of a market supervisory and administrative mechanism and a restraining mechanism).